



②① 絵双紙 東照宮祭山車二枚



②③ 名古屋東照宮  
神事山車引出之図



②② 愛知県社東照宮之図



②⑤ 若宮八幡社祭山車図



②④ 名古屋東照宮  
例祭行粧之図



②⑦ 若宮祭礼行列図



②⑥ 若宮祭礼行列図



①⑬ 若宮まつり



①⑩ 本町 狸々車



①⑨ 中市場町  
石橋車



①⑧ 京町 小鍛冶車  
(長者町 二福神車)



①⑦ 宮町 唐子車  
(伝馬町 林和靖車)



①⑥ 桑名町  
湯取神子車



①⑤ 長者町 二福神車  
(本町 狸々車)



①③ 伝馬町  
林和靖車



①② 七間町  
橋弁慶車



①① 七間町 橋弁慶車(宵)



①④ 和泉町 雷電車



①⑭ 下花車 二福神車



①⑮ 車楽

『名古屋能楽堂 特別企画展 名古屋の山車祭り展について』  
郷土英傑行列で知られる現在の名古屋まつりだが、これは戦後からのイベントに過ぎない。戦前は四月十七日の名古屋東照宮例祭をこそ名古屋まつりと云った。豪華なからくり山車や行列を繰り出し、今の名古屋まつりなど比較にならぬ賑やかさであったが、戦災で山車や行粧のほとんどを失って衰えてしまった。東照宮例祭は元和四(一六一八)年に始まり、城下町の各町が山車、警固のにぎやかさを競い、七代藩主徳川宗春の享保年間(一七一六〜一七三五)、十代藩主徳川齊朝の天保年間(一八三〇〜一八四三)に頂点に達した。橋弁慶車(七間町)、林和靖車(伝馬町)、雷電車(和泉町)、二福神車(長者町)、湯取神子車(桑名町)、唐子車(宮町)、小鍛冶車(京町)、石橋車(中市場車)、狸々車(本町)の九輛の山車は、明治四十三(一九一〇)年の名古屋開府三百年に際し、名古屋の旧城下町から名古屋城内まで曳き出して大群衆の喝采を浴びた。  
三之九天王社(現在の那古野神社)の祭礼は車楽、近隣からの見舞車、そして神輿渡御若宮八幡社の祭礼は特異な黒船車をはじめ七輛の山車が曳き出され、ともに六月十五、十六日と祭礼日が同じであった。「東照宮祭」、「三之九天王祭」そして「若宮祭」を、名古屋三大祭りと呼ぶ。

名古屋開府四百年の今年、十月十六日には『大山車まつり』が開催される。往時の東照宮祭を髣髴とさせる山車揃えは、さらに百年後の開府五百年へ向けて伝統を繋ぐことであろう。ここでは、残された絵画、工芸、史料などにより往時の山車を揃え、祭りを楽しんだ往時の泰平の世の人々と共に、名古屋の風流を味わっていただきたい。

(北島徹也)

出品目録

①【掛軸】

●東照宮祭

- ① 七間町 橋弁慶車(宵) 松吉樵溪筆 江戸時代
- ② 七間町 橋弁慶車 伊勢門水筆 昭和初期
- ③ 伝馬町 林和靖車 小寺稲泉筆 昭和初期
- ④ 和泉町 雷電車 今泉梅淡筆 昭和初期
- ⑤ 長者町 二福神車(本町 狸々車) 松吉樵溪筆 江戸末期

●桑名町湯取神子車

- ⑥ 桑名町湯取神子車 今泉梅淡筆 昭和初期

●宮町唐子車(伝馬町 林和靖車)

- ⑦ 宮町唐子車(伝馬町 林和靖車) 伊勢門水筆 昭和初期

●京町小鍛冶車(長者町 二福神車)

- ⑧ 京町小鍛冶車(長者町 二福神車) 今泉梅淡筆 昭和初期

●中市場町石橋車

- ⑨ 中市場町石橋車 伊勢門水筆 昭和初期

●本町狸々車

- ⑩ 本町狸々車 柳田樵谷筆 明治時代

●若宮祭

- ⑪ 未廣町 黒船車 伊勢門水筆 昭和初期
- ⑫ 玉屋町 西王母車 大塚香疎筆 戦後
- ⑬ 若宮まつり 伊勢閨水筆 戦後

●三之九天王祭

- ⑭ 車楽 朝宵双幅 森高雅筆/江戸末期、奥村石蘭筆 昭和初期
- ⑮ 下花車 二福神車 小寺稲泉筆 昭和初期
- ⑯ 伊勢閨水筆 戦後

②【刷物】

- ① 絵双紙 東照宮祭山車二枚 宝永四年
- ② 愛知県社東照宮之図 小田切春江原画 明治十七年
- ③ 名古屋東照宮神事山車引出之図 塚本版 明治十八年
- ④ 名古屋東照宮例祭行粧之図 塚本版 明治二十年
- ⑤ 若宮八幡社祭山車図 木村宗清版 明治十八年
- ⑥ 若宮祭礼行列図 塚本版 明治三二年
- ⑦ 若宮祭礼行列図 松屋善兵衛版 江戸時代